

【記入例】

教員の研究活動

連合講座：生物機能科学 所属大学：島根大学

氏名（ローマ字）：連大 太郎（Rendai, Taro） 職名：教授

公表論文

著書（単著の場合）

- 1) Rendai, T.: Host-Pathogen Interactions in Plant Disease (ISBN: 978-0-12-369493-5). Elsevier, Amsterdam, 257p. (Aug. 2017)
- 2) 連大太郎：DNA とタンパク質 (ISBN: 4-7853-5209-4). 裳華房, 東京, 188p. (2017年5月)

著書（共著の場合）

- 1) Daisenji, M. and Rendai, T.: Host-plant selection by phytophagous insects. *In Pathogenesis and Host Specificity in Plant disease* (Edited by Lehane, M.J. and Billingsley, P.F., ISBN: 978-1-4200-6177-2), CRC Press, Taylor & Francis Group, Boca Raton, pp. 51-87 (Aug., 2017)
- 2) 連大太郎：栄養・消化・排泄. 昆虫生理生態学（河上義明・毛利貞洋・池田柗太郎編, ISBN: 978-1-254-42031-9）. 朝倉書店, 東京, pp. 32-52 (2018年3月)

論文

- 1) Rendai, T., Shimane, J. and Yamaguchi, S.: Ancestral developmental potential facilitates parallel evolution in the Atlantic killfish (*Fundulus heteroclitus*). *Journal of Biological Chemistry*, **285**: 26107-26113 (Aug., 2017)
- 2) 大山寺榊美・山口三郎・島根次郎・連大太郎：汽水湖底質の加熱造粒による脱塩技術. 環境技術 (2018年2月)

その他

- 1) 山口三郎・連大太郎：ツツジの異なる花色の花冠における差次的発現解析. 島根大学生物資源科学部研究報告, **12**: 52-59 (2017年9月)
- 2) 連大太郎：グリシンベタインと耐塩性. 農業および園芸, **82**: 217-223 (2017年7月)

招待講演

国際学会

- 1) Rendai, T.*. and Daisenji, M.: Water saving in irrigation at the field level. The 8th International Conference on Mushroom Biology and Chemical Control. Portland, Oregon, USA (Mar., 2018)

国内学会

- 1) 連大太郎：病原菌の病原性決定因子に対する植物の認識と応答. 日本植物生理学会シンポジウム（島根県浜田市）(2018年2月)

学術賞等の受賞 （平成29年度（2017年度）のみ）

日本生化学会奨励賞（2017年10月21日）

日本植物病理学会賞（2018年3月19日）

研究助成金 （平成29年度（2017年度）のみ）

科学研究費（代表者のみ）

- 1) 基盤研究 (B)：ナイル川流域における効率的水利用に関する調査研究
- 2) 若手研究 (B)：トチノキの果実あたりの種子数の変動とその要因

その他

奨学寄付金：2件, 受託研究：1件, 共同研究：3件

その他の教育研究活動 （平成29年度（2017年度）のみ）